

日本訪問看護財団 WEB アンケート  
第 4 弾 新型コロナウイルス感染症に関するアンケート  
～第 3 波における訪問看護ステーションの現状と対応～

【報告書】

2021（令和 3）年 2 月 16 日  
公益財団法人日本訪問看護財団

# I. 調査概要

---

## 1. 目的

新型コロナウイルス感染症の第3波における訪問看護ステーションの現状と対応等の実態調査を行い、課題を把握し、提言とする

## 2. 調査協力

日本訪問看護財団の会員

## 3. 調査対象

訪問看護ステーションの管理者またはその代理者

## 4. 調査方法

Web アンケート調査

## 5. 調査期間

2021（令和3）年2月2日（火）～9日（火）

## 6. 回答数

322 件

## 7. 設問項目

### 【Step1】 貴訪問看護ステーションの基本情報について……………P6

所在地／開設法人／開設期間／常勤換算数／医療保険の利用者人数／介護保険の利用者人数

### 【Step2】 新型コロナウイルス感染症に関する訪問看護ステーションの対応について……………P7

新型コロナウイルス感染症（疑い含）に関する新規の利用を断ったケースの有無、件数とその理由／新型コロナウイルス感染症拡大が原因で退職した（予定含）スタッフの有無と人数／訪問時に利用者のPCR検査（検体採取）を主治医に依頼されて実施したことの有無

### 【Step3】 利用者およびスタッフのこれまで（回答日）の新型コロナウイルス感染症発生について……………P8

利用者の新型コロナウイルス感染症発生状況とその年齢（65歳以上または65歳未満）／どのような状況の時に訪問したか／訪問看護ステーションのスタッフの感染状況、新型コロナウイルス感染者、濃厚接触者、疑いのある者の人数と休ませた延べ日数

### 【Step4】 新型コロナウイルス感染症に関する健康支援と自治体との連携について……………P9

ワクチン接種実施に向けて自治体から応援要請等の有無／自宅療養者または宿泊療養者への健康支援を行っているか

### 【Step5】 貴訪問看護ステーションにおける現状等について……………P9

貴訪問看護ステーションにおけるBCP（事業継続計画）の対応状況／コロナ禍による訪問看護サービスの提供に際して、一番困っていること

### 【Step6】 厚生労働省の支援策について……………P9

厚生労働省に今後期待する支援策

### 【自由記載による現場の意見】……………P10

自由記載にあった事例の当財団で取りまとめました

## II. 調査結果のまとめと提言

---

### 1. 新型コロナウイルス感染症に関する訪問看護ステーションの対応について

#### 1) 新規利用者への対応について

感染者（疑い含）に関する新規利用者の対応についてやむを得ず利用を断ったことがあるのは 13 件であった【Step2-1】。断った理由は、「マンパワー不足のため」、「PCR 検査を受けられた人は結果が出るまでサービスを中止する方針のため」、「アフターコロナへの訪問で、予防的な感染防護具の利用は限りがあるため」等の理由であった【Step2-2自由記載】。

#### 2) 感染症拡大が原因で退職した（予定含）スタッフについて

2020 年 1 月から 2021 年 1 月末日（3 月末予定者含）で新型コロナウイルス感染症が原因で退職した（予定含）スタッフがいた事業所は 6.5%であった【step2-3】。

#### 3) PCR 検査（検体採取）の実施について

PCR 検査（検体採取）を主治医に依頼されて実施したことがあるのは 10.2%であった【Step2-5】。自由記載の中で「要介護 5 などの利用者は在宅での検査を希望される可能性がある。PCR 検査を自宅で採取しなければならぬことが起こった際のスタッフの不安が想定される」とのコメントがあり、スタッフの精神的負担を心配する意見もあった【step5-2自由記載】。

### 2. 感染者（疑い含）等の発生について

#### 1) 利用者について

感染者（疑い含）が「発生した」訪問看護ステーションは 119 か所（37.0%）であった【Step3-1】。119 か所の事業所における利用者の実態では、年齢が、「65 歳以上」は合計 162 人、「65 歳未満」は合計 46 人であった【Step3-1-(2)】。

感染者（疑い含）が「発生した」場合、その利用者（複数）がどのような状況の時に訪問したかという設問では、「PCR 検査結果待ち・検査結果待ちの状態に訪問した（濃厚接触者・疑いがあるもの）」が 37.0%で最も多く、次いで「外出自粛中に訪問した（濃厚接触者・疑いがあるもの）」16.0%、「本人の意思や家族の状況で自宅療養しているところに訪問した（感染者）」10.9%であった。「訪問する機会がなかった」のは 37.0%であった【Step3-1-(3)】。

上記の結果から、今回の調査で回答を得られた訪問看護ステーションで感染症（疑い含）が発生したのは約 4 割であるが、そのうち約 7 割の訪問看護ステーションは、感染者あるいは濃厚接触者等の元へ訪問していることがわかり、訪問看護師の感染リスクも高まっていることが推測された。

#### 2) 訪問看護ステーションのスタッフについて

感染者が「発生した」訪問看護ステーションは 73 か所（22.7%）であった【Step3-2】。スタッフの内訳は、「新型コロナウイルス感染者」は 21 人、「濃厚接触者」は 51 人、「疑いがあるもの」は 128 人であった【Step3-2-(2)】。スタッフを休ませた延べ日数は 1 訪問看護ステーション当たり平均 13 日であった【Step3-2(参考)】。スタッフが感染者や濃厚接触者になることで、やむを得ず休む状況につながることから、現場の困りごととして、「人員基準がギリギリな状況のため感染者が出た場合、人員確保ができない」「万が一感染者が出た場合の運営が不安」という声が多かった【step5-2 自由記載】。このような状況のため、厚生労働省へ今後期待することとして「収入が減少したため人員を確保したくても難しい。スタッフ雇用に関する補助を手厚くしてほしい。」【step 6 -⑦自由記載】という、スタッフを雇用する際の補助金等の要望が複数あげられた。

### 3. 感染症に関する健康支援と自治体との連携について

ワクチン接種実施に向けて自治体から接種会場での応援要請を受けている事業所は 1.6%であり、要請は受けていないが応援可能な事業所は 8.4%であった【step 4-1】。

また自治体が訪問看護ステーションと委託契約をして、自宅療養者または宿泊療養者への健康支援を行っているのは 1.2%であった【step 4-2】。

### 4. コロナ禍において一番困っていること

今回は、コロナ禍において現場で困っていることを自由記載していただいたことで、訪問看護サービスにおける現状が具体的事例として見えてきた。

まず、記載内容で最も多かったのは「利用者の感染対策や協力が得られない」ことであった。「訪問前に体温を測ることや他県からの帰省の有無などの事前連絡をお願いするけれども得られない」、「利用者や家族からタイムリーな情報がなく訪問してから急遽感染対策をせざるを得ない」、「入浴介助では利用者がマスク着用できないので困る」などが挙げられた。

また、医師やケアマネジャー等と職種間による感染に対する認識の差だけではなく、医療機関やデイサービス、ショートステイ、グループホーム等との施設間の差もあり、タイムリーな情報共有が困難であることが浮き彫りとなった。とりわけ、ケアマネジャーからの情報提供が滞っている事例では、「施設で感染が発生してもケアマネジャーから連絡が来ないため、利用者宅に訪問した際に初めて利用者から聞かされる」ということが複数みられた。訪問時発熱があった際は、「新型コロナウイルス感染症による発熱なのかそれとも他のことに起因する発熱なのか不明のまま訪問をしているので、職員の不安や緊張は解消されない」という意見もあった。

また、「病院の面会に制限があるため、在宅へ切り替えるがん末期の看取りが急増している」というコメントがあった。さらに、利用者が感染疑いという段階であっても訪問看護以外のサービスが全て中止となることから、訪問看護は生活支援の関わりも多くなっていることがわかり、利用者やケアマネジャーの急な依頼に対応できない現状も浮き彫りとなった。

感染防護具（PPE）に関しては、「訪問の際は装着しているがコスト負担も増えたため確保が難しい」という意見も散見された。訪問看護師は感染に罹患しないように細心の注意を払っているが、感染防護具が十分でない状況での訪問は精神的負担が大きく、なかには「事業を継続できるかというプレッシャーと不安から、精神的に辛い」という意見もあり、現場で働く訪問看護師の精神的ストレスが垣間見れた【step 5-2)任意・自由記載】。

以上のような自由記載の結果から、厚生労働省に今後期待する支援策では、医療介護福祉の現場における情報のスムーズな伝達・共有の指針や訪問看護に関する感染対策の指標の作成等が挙げられた【step 6 ⑦その他・自由記載】。※P10 事例紹介参照

### 5. BCP(事業継続計画)について

BCP の作成については、「これから 3 年以内に作成する」が 32.3%で最も多かった。次いで「作成中である」が 24.8%、「自事業所のみ BCP を作成して実施している」が 19.3%、「感染症や災害発生時であってもサービスが継続できる方針がある」が 16.1%であり、自事業所と地域の関係機関との連携を踏まえた BCP の作成は、わずか 2.5%であった【step 5-2】。

今後 3 年以内に BCP を作成することが経過措置として決められているため、地域を視野に入れた BCP の作成に向けて、訪問看護ステーションへの支援が課題と言える。

## 6. 提言

新型コロナウイルス感染症の発生から約 1 年が経過し、今回は第 4 弾のアンケート調査を行った。これまでの調査ではみられなかった「ワクチン接種」や「在宅での検体採取」等の意見も散見され、さらなるフェーズでの課題が見いだされた。

訪問看護ステーションは規模の小さな事業所が多いことから、スタッフが感染者や濃厚接触者になることで事業運営に直接影響が出る。このため、日々の訪問には感染対策についてかなり慎重に行っているものの、感染に対する意識の差から、利用者や家族、多職種などから事前に情報が得られず、利用者宅で急遽感染対策をしている状況や発熱等感染の判断ができず、感染対策の迷い等が浮き彫りとなった。

今回の調査で回答を得られた訪問看護ステーションのうち、利用者の感染症（疑い含）が発生したのは約 4 割であった。当財団ではこれまで新型コロナウイルス感染症に関する実態調査を 4 回実施しており、回答者が同一ではないため正確な比較はできないが、第 1 弾の調査から今回の第 4 弾までの利用者の感染症（疑い含）件数を回答者の割合でみると確実に増えており、訪問看護師のリスクが高まっていることが分かった（第 1 弾 6.4%、第 2 弾 9.4%、第 3 弾 22.1%、第 4 弾 37.0%）。今回の調査で感染症（疑い含）が発生した訪問看護ステーションは約 4 割である。そのうち約 7 割は感染者あるいは濃厚接触者等の元へ訪問している実態が明らかとなり、感染への不安や緊張感は弱まることはないと思える。

今回の第 3 波では、医療機関のひっ迫により退院基準を満たさずまま退院するケースがある。感染防護具が高騰化し、十分な感染対策ができない状況は感染リスクを高め、また、現場の不安をさらに増強させることから、安定的な物資の供給や訪問看護に関する感染対策のガイドラインの策定、地域における情報共有の仕組みづくりは喫緊の課題と言える（具体的なガイドラインには、医師やケアマネジャー等との情報の確認項目、在宅におけるゾーニング方法など）。

このように、訪問看護ステーションの現場では、感染対策に関する課題だけでなく、訪問看護ステーションの運営やスタッフのメンタルヘルス等のさまざまな課題があることが自由記載のコメントより見いだされた。コロナ禍の状況はとかく医療機関に注目されがちだが、在宅でも医療従事者の感染リスクは変わらない。むしろ、訪問看護師の実践場所は利用者のホームグラウンドであり、また、認知症や精神疾患の利用者にはマスクの着用など徹底できないケースが多発している。家族や多職種がかかわってケアを行うことから医療機関のような一定のコントロール下にある状況より感染リスクは高いと言える。このため、ケアマネジャーをはじめ介護職等と感染に対する一定の知識を共有することで、迅速かつ適切な感染対策が実行できる仕組みが望まれる。地域包括支援センターなどが率先して取組を進め、感染予防のレベルを一定に保つために、訪問看護ステーションの感染防護に関する知識や技術などを活用していただきたい。

当財団では、今後とも実態を把握しながら、訪問看護ステーションが在宅医療・介護の担い手として安全に訪問できるため種々の対応策を提言していく。

以上

### 【調査のお問い合わせ先】

日本訪問看護財団 研究担当又は広報担当

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5 階

TEL : 03-5778-7001 (代表) / Eメール : kenkyu@jvnf.or.jp

\\$ 6 W H S \ "œ ü ð H ç!|.d] ]O][\Ø f @ r > \Ö \Î @ Ð

1			
	1	322	100.0%
		36	11.2%
		86	26.7%
		46	14.3%
		128	39.8%
		23	7.1%
		3	0.9%

2			
	1	322	100.0%
		65	20.2%
		10	3.1%
		8	2.5%
		6	1.9%
		28	8.7%
		3	0.9%
		171	53.1%
		9	2.8%
		22	6.8%

3		2021 1	
	1	322	100.0%
	1	36	11.2%
	1 2	23	7.1%
	2 3	25	7.8%
	3 5	35	10.9%
	5 10	91	28.3%
	10 15	29	9.0%
	15	83	25.8%

4	2021 1 1		
	1	322	
		1813	5.6
		545	1.7

2	2021 1 1	322	100.0%
	1 20	166	51.6%
	21 50	95	29.5%
	51 100	39	12.1%
	100	17	5.3%
		5	1.6%

3	2021	1	1		322	100.0%
1	20				61	18.9%
21	50				112	34.8%
51	100				89	27.6%
100					41	12.7%
					19	5.9%

§ 6 W H S \œ x ' ] U 2 ] ] S ! Î a Õ Ý Ã ö ð H ç ! ] . d ] ] O ] [ Ø ì á Õ Î Ò ð

1	2021	1	1		322	100.0%
		1			13	4.0%
					309	96.0%

2		1			13	
					25	

3	2020	1	2021	1	(3	)	
		1			322	100.0%	
					21	6.5%	
					301	93.5%	

4		3			21	
					31	

5		1			322	100.0%
					33	10.2%
					289	89.8%

§ 6 W H S \œ 9 ÷ »\ò\Ý]!] +=\Ø½ö\èÑ Ú æ © Ø × ' ]U]2] ]S]! Í ª Ä Ç Ö Ñ @ Ð

1					
1					
	1			322	100.0%
				119	37.0%
				203	63.0%

2	1		65	65	
				119	
		65		162	
		65		46	

3	1				
				119	
				4	3.4%
				13	10.9%
				0	0.0%
			3	69.8	2.5%
			0		0.0%
			19		16.0%
			44		37.0%
			44		37.0%

2					
1					
	1			322	100.0%
				73	22.7%
				249	77.3%

2	1				
				73	
				21	
				51	
				128	
				959	

		1	13
2	(1)		73
	(2)		959





